

帥大伴卿の歌五首（そのうち三首）

- ⑤ わが盛さかまた変を若ちめやもほとほとに寧なら樂みやこの京みやこを見ずかなりなむ（三・三三一）
⑥ わが命も常にあらぬか昔見し象きさの小川を行きて見むため（三三二）
⑦ わすれ草わが紐ひもに付く香具山の故ふりにし里を忘れむがため（三三四）

大宰帥大伴卿の冬の日に見て京みやこを憶おもふ歌一首

- ⑧ 沫雪あわゆきのほどろほどろに降り敷けば平城ならの京みやこし思ほゆるかも（八・一六三九）

天平二年庚午冬十二月、大宰帥大伴卿、京に向ひて上道みちたちする時、作る歌五首

- ⑨ 吾わ妹ぎも子こが見し鞆しもの浦のむろの木は常世とこよにあれど見し人そなき（三・四四六）
⑩ 鞆の浦の磯のむろの木見むごとに相見し妹は忘れえぬやも（四四七）
⑪ 磯の上に根ね這はふむろの木見し人をいづらと問はば語り告げむか（四四八）
右の三首は、鞆の浦を過ぐる日作る歌。

- ⑫ 妹と来し敏馬みぬめの崎を還るさに独りして見れば涙ぐましも（四四九）

- ⑬ 往ゆくさには二人わが見しこの崎を独り過ぐればこころ悲しも 一に云ふ、見もさかず来ぬ

（四五〇）

右の二首は、敏馬の崎を過ぐる日作る歌。

故郷の家に還り入りて、即ち作る歌三首

- ⑭ 人もなき空むなしき家は草枕旅にまさりて苦しかりけり（四五一）
⑮ 妹として二人作りしわが山し斎まは木高こだかく繁くなりけるかも（四五二）
⑯ 吾妹子が植うゑし梅の樹見ることこころ咽むせつつ涙し流る（四五三）

⑰ 大宰帥大伴卿、酒を讀よむる歌十三首

- ◎ a 驗しるなき物を思はずは一坏ひとつぎの濁れる酒を飲のむべくあるらし（三・三三八）

b 酒の名を聖ひじりと負おほせし古いにしへの大き聖の言ことのよろしき（三・三三九）

c 古ななの七さかの賢さかしき人たちも欲ほりせしものは酒にしあるらし（三・三四〇）

- ◎ d 賢さかしみと物いふよりは酒飲のみて酔よひ泣なするしまさりてあるらし（三・三四一）

e 言はむ為す便べせむ為す便べ知らず極きはまりて貴たかきものは酒にしあるらし（三・三四二）

f なかなか人にとあらずは酒壺しほに成りにてしかも酒に染しみなむ（三・三四三）

- ◎ g あな醜みにく賢さかしらをすと酒飲のまぬ人をよく見ば猿さるにかも似にむ（三・三四四）

h 価あたひ無なき宝といふとも一坏ひとつぎの濁れる酒にあに益えきさめやも（三・三四五）

i 夜光る玉といふとも酒飲のみて情こころをやるにあに若しかめやも（三・三四六）

- ◎ j 世よのなかの遊あそびの道にたのしきは酔よひ泣なするにあるべくあるらし（三・三四七）

k 今いまの世よにしこ樂たのしくあらば来よむ生なまには虫むしに鳥とりにもわれはなりなむ（三・三四八）

l 生い者けつつひにも死しぬるものにあれば今いまの世よなる間まは樂たのしくをあらな（三・三四九）

- ◎ m 默も然だをりて賢さかしらするは酒飲のみて酔よひ泣なするになほ若しかずけり（三・三五〇）

神龜五年（七二八）天平元年の公卿

神龜五年（七二八）夏頃

知太政官事 一品 舍人親王

左大臣 正二位 長屋王 45？

右大臣 (欠員)

大納言 從二位 多治比池守 (神龜二年、靈寿杖を賜る)

中納言 正三位 大伴旅人 64 (任官後11年目)。夏までに兼大宰帥

正三位 藤原武智麻呂 49 (任官後8年目)

從三位 阿倍広庭 70

参議 正三位 藤原房前 48

非参議 從三位 藤原宇合 35 式部卿

★天平元年（七二九）二月十二日 長屋王の変

天平元年（七二九）三月四日現在

知太政官事 一品 舍人親王

左大臣 (欠員)

右大臣 (欠員)

大納言 從二位 多治比池守 (天平二年九月八日、薨)

正三位 藤原武智麻呂 50 三月四日、任大納言

中納言 正三位 大伴旅人 65 兼大宰帥

從三位 阿倍広庭 71

参議 正三位 藤原房前 49 (九月二八日、任中務卿)

權参議 從三位 多治比島守 62 大宰大貳。二月一日、任權参議。三月四日、從三位

從三位 石川石足 63 左大弁。二月一日、任權参議。三月四日、從三位

正四下 大伴道足 三位 (八月九日、薨)

彈正尹。二月一日、任權参議。三月四日、正四位下。(九月二八日、任右大弁)

式部卿

京職大夫。三月四日、從三位

非参議 從三位 藤原宇合 36

從三位 藤原麻呂 35